

総合科学の基礎C
哲学思想の基礎

2018/07/13
認識論と存在論

前回のまとめ

- カントの分析命題:「雨が降る。ゆえに空から水が落ちてきた」など。絶対正しいが知識は増えない。
 - 総合命題:「質量のある物体の間には、 $f=GMm/r^2$ の力が働く」など。経験(実験)にもとづくもので、論理的・普遍的に正しいと証明できないが、知識は増える。
- 「物体は延長する」:デカルトによる物体の定義。それに対して「心は考える」=心身二元論。
- 国民意識(共同体意識)にはよい面悪い面がある。
 - 19世紀、近代国家(国民国家)の成立により、人為的に作られた。
- アリストテレスは、ものごとには「ポテンシャル」が含まれており、それが「アクチュアル」になっていくのが世界における生成変化だと考えた。

学生のコメント

• **機械**でなく**機会**原因論。

- マルブランシュ
- アルブランシュ(2名)
- ルブランシュ

機会原因論

- (マルブランシュの機会原因論について)「自分の心の中の動きだけにより引き起こされた感覚も神によるものなのか。物理現象は目に見えるが頭で考えて心で感じることは目に見えないのでどうなるのか疑問だ」。
 - 感覚(色や音など)=心の中で起こる。
 - 物理現象=物体の世界で起こる。
 - 問題:どうして両者が対応するのか?
 - マルブランシュの答え:ある物理現象に対応する感覚を神が心の中に生起させる。神の行為は法則(自然法則)に従う。

国民意識

- 「私はワールドカップなどを観戦して日本が勝てば当然のようにうれしくなる。しかし、よく考えればそこで活躍している人は赤の他人であって自分とは何も関係がない。日本という共同体の意識がそうさせていることに今回初めて気づいた。今、我々が当たり前だと思っていることでも、一度立ち止まって、考え直してみる必要がある」。
 - 最近、やたらとナショナリズムをあおるようなテレビ番組や本やウェブサイトやSNSの書き込みがありますから、気をつけてください。
 - 「何でも疑う」ことは不可能です。哲学を学ぶことで、「疑うべきものごと気づく力」を身につけてほしい。
 - 国民意識の形成については、アンダーソン『想像の共同体』が古典ですが、田中克彦『ことばと国家』(岩波書店)などが取り付きやすい入門書でしょう。
 - サッカーなど近代スポーツやスタジアムも同時期に成立。

人それぞれ

- 「Realityとtruthは異なるという意見に賛同する。これまでの授業で習った通り、正しさは人それぞれだからだ」(複数回答)
 - 正しさは人それぞれでない、と言い続けてきたつもりなのですが... orz